

# まぶこ

公益社団法人 岐阜病院 広報誌

第

38

号



## 病院理念

私たちは、  
真心をこめて  
医療福祉サービスを  
提供します。

## CONTENTS

- SDGs、安心・安全、正しさ、中島みゆき
- 特集 栄養科より 病院給食について
- 看護部より リレー連載  
認定看護師「精神科薬物療法看護」のお話
- 地域連携室より
- 外来担当表



公益社団法人  
岐阜病院

# SDGs、安心・安全、正しさ、中島みゆき



公益社団法人 岐阜病院  
理事長・院長  
鈴木 祐一郎

現今、SDGs(持続可能な開発目標; Sustainable Development Goals)と名付けられた主張が目抜き通りを堂々で行進している。こうした考え方が表を闊歩するようになってきたのはいつ頃からだろうか。ここはSDGsの思想が持っている危うさや、真の困難を隠蔽するまさしく虚偽意識としての働きについて、それを歴史的にあれこれ検討する場ではない。ただ私企業あるいは宗教団体の宣伝道具と化し、SDGsを楯にして利益を得ようとするビジネスマインドの薄暗さが、むしろ地球の破綻へと至るリスクをマグマの如くため込んでいる、とだけ指摘しておきたい。

だが、そのように言ったからといって、野放図な開発とか歯止めなき成長を私が是としている訳では全くない。持続可能性というのは、人類にとっても地球上の全生物にとっても真に重要な目標である。

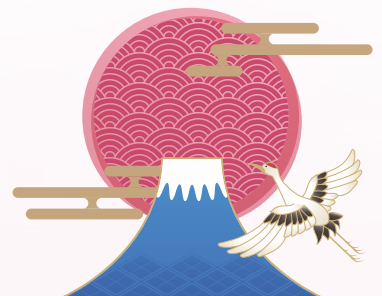
思えば、私の子供時代(1960年代)は、64年に東京オリンピックがあり70年に大阪万博があって、昨日より今日、今日より明日の成長発展が当然視された時代であった。その中で私も「成長発展」を疑うことのない青年であったが、大学に入学して間もなく、社会学の授業の中で「成長の限界」というローマクラブレポートのことを教えられて、自分の立っている場所が思いも寄らず不安定な地盤に載っていることに気付いて驚いたものだ。

その時から、私は何かを考える際の出発点として、常にそこに回帰することを志向してきたものだ。回帰する「そこ」とは、当時はうまく表現できなかったが、今の言葉で言えば「持続可能性」である。もちろん私の思考が揺らぐ真っ直ぐに進んできた、などと僭称するつもりはない。持続可能性という信に対する迷いや逡巡と背信の悔いに、いつも背後から追いかけていた気がする。だが、であるからこそSDGsの虚偽性には敏感にならざるを得ないのである。SDGsが本当に重視しているのはdevelopmentであって、sustainableなどは口当たりの良いトッピングに過ぎないのではないか。

似たような構図が、「安心・安全」という言葉で為される主張にも見て取れる。根柢まで掘り下げて物事を考える習慣のない人間が、安易に呪言のように唱える常套句として使い、そしてあわよくばその呪言から利益をも引き出そうとするものとして、SDGsや安心・安全があるように見える。疑り深い私は、ここは騙されまいぞと警戒する。

何でも疑ってかかることが習性となっている私にとっては、正しさを主張するあらゆる語りには、いつだって眉に唾を付けたくなる。しかし、にもかかわらず、正しさの追求を諦めるのは頹落になる。正しさというのは厄介なものだ。いわゆる「正しさ」には断言と排除が付き纏いがちである。私は多面性のない正しさは信用に値しないと思うし、また正しさについては保留付きでしか遇せないと思う。以前に別の文章でも書いたが、ツルツルとした滑らかな言葉や主張は正しさを纏った騙りであり、これとは逆にごつごつとした手触りの中に正しさに近づく道があるのかもしれない。

最後に付け足し。正しさということで思い浮かべるのは中島みゆきの有名な歌だ。その名も「Nobody Is Right」という、正しさの持つ危険性と哀しさや淋しさを主題として取り上げた曲である。紙幅もないので歌詞をここで示すことはしないが、興味を持たれたら調べて曲も聞いてもらいたい。私が以上で述べてきたことに深く関係するような歌詞である。中島みゆきは抜きん出た偉大な詩人である、と私見ながら思う。



# 病院給食について

私たち岐阜病院の栄養科職員は、日々入院患者様の健康を考え、楽しく食事していただける献立作りを心がけ、特に衛生に注意して安全な食事提供に努めています。

## ある日の献立から

- 味ごはん
- さけの塩焼き
- もずくスープ
- しめじのごま和え
- 牛乳



## 祝日には赤飯が出るときもあります

- 赤飯 ● えびカツ
- キャベツと人参の千切り
- 冬瓜のからめ煮 ● プチプチ大根
- ヨーグルト

## 当院のおせち料理

噛む力の弱い方にも食事を楽しんでいただけるよう、盛り付けを工夫しています。



普通食・粥食



きざみ食



ゼリー食



ソフト食



みじん・とろみ・ペースト

## 栄養科のスタッフはこんなお仕事をしています

### 管理栄養士です

入院患者様の食事・栄養管理、  
 外来・入院患者様の食事栄養指導、  
 褥瘡・嚥下困難・低栄養の患者様の  
 病棟カンファレンス出席。  
 栄養士が作成した献立や発注  
 確認、食事の配膳チェックを  
 しています。



### 栄養士です

献立作成、発注、特別食  
 の調理、盛り付けをして  
 います。

### 調理師・調理員です

調理、盛り付け、配膳、  
 食器洗浄をしています。



## 看護部より リレー連載 認定看護師「精神科薬物療法看護」のお話

はじめまして、日本精神科看護協会 精神科認定看護師の馬場真利です。私の活動を紹介させていただきます。

精神疾患において、薬物療法は欠かすことができない治療法の一つです。患者様は毎日様々な思いを抱えてお薬を飲み続けています。薬剤は様々な用法・用量が選択、組み合わせられて医師から処方されています。看護師もまた専門性を活かし、服薬について何かお手伝いできることはないかと、日々模索しています。

精神科看護の基本的な役割は、「自律性の回復」と「その人らしい生活」の支援です。そのために必要な薬物療法を継続できるよう患者様に寄り添い、医師・薬剤師と連携を図り生活に合わせた服薬方法の提案をしています。そして、臨床現場において看護師が服薬支援を実践できるよう必要な資料を作成、院内研修会では精神科薬物療法についての知識や専門的なコミュニケーションスキルを伝達、また病棟で困っている事案に対しては病棟に出向きスタッフと意見交換する、といった活動をしています。

今後も「その人らしさ」「希望」を支える活動を、看護スタッフと一丸となって取り組んでいきます。



専門・認定看護師による無料相談コーナー  
詳しくはホームページを御覧ください。

## 受診・入院のご相談、クリニックからの患者様ご紹介・検査など 窓口

地域連携室

☎058-259-3366 (直通)

受付時間 平日9:00~17:00

「初めて受診したい」といったご相談・ご予約にも応じます。  
クリニックからのご紹介は来院日を調整いたしますのでお問い合わせ下さい。

予約申込票 送付先

FAX 058-259-3376

書式は当院ホームページの地域連携室からダウンロードできます。

※土日祝および平日夜間に送付頂いた分は、翌営業日の対応になります。ご了承下さい。



## 外来担当表 (令和5年1月現在)

	月	火	水	木	金
1 診	初診	初診	初診	初診	初診
2 診	淡路	石井	吉田	淡路	柳澤
3 診	宮崎	勝	深尾(希)	南谷(陽)	伊藤
4 診	伊藤	吉田	南谷(陽)	前田	村橋
5 診	前田	山舗	柳澤	土野	山田
6 診	坂田	鈴木院長	村橋	藤後	山舗
7 診	安楽	真鍋	坂田		藤後
8 診			土野		
午後診療 (再診のみ) 13:00~15:00	宮崎 本間	須磨 山舗	深尾(希) 柳澤		柳澤 本間

感染対策にご協力をお願いします。

来院時のお願い

- マスク着用
- 手指消毒
- 体調不良の方は入館をご遠慮ください



当院の取り組み

- 空調による換気
- サーマルカメラ設置
- スタッフマスク着用



## 編集後記

あけましておめでとうございます。コロナウイルスが落ち着いたかと思えば、また次の波が来るといったことを繰り返してなかなか終息いたしません。今年こそは良い1年を過ごせることを願っています。

本年が、皆様にとって良い1年でありますように。

広報委員

公益社団法人 岐阜病院

広報誌まごころ

令和5年1月20日発行



〒500-8211

岐阜県岐阜市日野東3丁目13番6号

☎058-245-8171 FAX 058-246-6824

http://www.shadan-gifu.or.jp